



家庭でのあいさつのススメ



私（校長）はできるだけ、朝の登校時には校門付近に立って、声をかけながら子どもたちの様子を観察するようにしています。4月当初には「おはよう！」と声をかけてもなかなか反応がなかったのですが、最近では、子どもたちの方から明るい声でのあいさつが聞かれるようになりました。そこから私に絡んで（？）きて、たわいのない世間話をするというの、朝の楽しみのひとつになっています。

しかしながら、一言も声を発しないで、私の目の前を通り過ぎて行く子がいることも、また事実です。追求しようとは思わないのですが、恥ずかしくて言えないのか、面倒くさくて言わないのか、機嫌が悪くて言いたくないのか、様々な理由があると思うのですが、「この子たちは家の中ではどんな様子なんだろう？」と考えることがあります。家庭にも、様々なあいさつによるコミュニケーションの場がありますね。その時にしっかりできるのならば、よそに行ってもできそうな気がします。反対に、家ではあまりしていないけれど、外ではちゃんとあいさつができるよ！というパターンもあります。（これは『外ヅラがいい』とも言いますが。）いずれにしても、我々が日常生活を営んでいくために、あいさつは、

相手を認め、自分の存在を知らせ、気持ちを伝える最も有効な手段である。

なのだろうと考えます。

そこで、保護者の方々にお願いします。お子さんの将来的なコミュニケーション能力育成のために、以下のあいさつがうまく機能しているかどうかを見届けていただきたいのです。いきなり言われても、身内同士で交すには照れくさい部分もあるかもしれませんが、この「照れくさい」「恥ずかしい」が目の前にカベとなって立ちちはだかっているケースが多いようです。お子さんの様子はいかがなものでしょうか？もしも上手くできていなかったら… ぜひ、家族の皆様からの声かけをお願いいたします。

朝起きたら「**おはようございます**」で、一日が始まります。
食事の時には「**いただきます**」 食べ終わったら「**ごちそうさま**」
朝、自分が学校に出かける時には「**行ってきます**」
出かける家族を見送る時には「**行ってらっしゃい**」
学校から帰った時には「**ただいま**」
帰ってきた家族には「**お帰りなさい**」
そして、寝る時の「**おやすみなさい**」で、一日が終わるのです。

こんなスローガンも聞いたことがあります。

あったら いつも さきに つづけて

第3回・全校集会より(2月9日)

① ”*****”先生のお話



「大きくなったら なにになる?」という**先生の子どもの頃のお話でした。5歳の時は「わたあめや」11歳の時は「サッカー選手」になりたかったしおんちゃん。大きくなるにつれて「自分はお話をしたり、人の話を聞いたり、文章を書いたりすることが好きなんだ!」ということに気が付き始めました。そこから「学校の先生」を目指したそうです。小学校の思い出の写真も見せてくれましたが、その中に写っていたのが「加**子先生」「鈴木 **先生」。小学生の時のしおんちゃんを知っている2人です。縁とは不思議なものですね。「岩谷小の皆さんも、『心のコップをまっすぐにして』自分の夢を叶えるために頑張ってください。」というメッセージをいただきました。

② ”*****”先生のお話



算数の学習で問題を解く時に、ぜひ使ってほしいオススメの方法を紹介していただきました。

赤いぼうしが 6こ 白いぼうしが 7こあります。
あわせて なんこ ありますか。

- ① 大事な数字に を引きます。 ② 聞かれていることに を引きます。
③ 何算を使うかの手がかりを で囲みます。 ④ 答えの単位に○をつけます。

これは1年生の問題ですが、基本的には何年生でも同じです。高学年のように問題文が長くなってくると「情報を整理する」ことが必要になってきます。何が分かっているのかを、何を聞かれているのかを、問題文にきちんと書き表してみてくださいね。

第十五回小島かわたれ子ども俳句コンクール

由利本荘市、にかほ市の小学生二千九百句の応募がありました。本校からは以下の皆さんが入賞となり、受賞百句に選ばれました。おめでとうございます。

奨励賞

銀世界 まるで光の 大地かな

六年 *****

チャレンジ賞

秋の寺 紅葉見えて 人沢山

四年 *****

雪がふる 小さな家に ゆかいな声

四年 *****

そらのうみ てんとうむしが たびだつよ

五年 *****

十六夜に 虫が集まり 大合唱

五年 *****

寒さ増し 雪ふらんかと 待つ私

六年 *****